

以前、リリー賞を受賞した出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会「ふあっと」には興味があり機会があったら直接行って話しを聞いてみたいと考えていたことが、県の退院促進強化事業を宮崎県精神福祉連合会が委託を受けることになり、その一環として退院促進に関した先進地の視察をするということで実現することになる。

行ってまず感じたことは、施設の充実と当事者に対するサポートがしっかりしたシステムで支援されていることに感心する。施設は、地域の中に支援センター、憩える場所、交流スペース、レストランがあり、広くて明るく楽しい雰囲気の中で、地域の方も気軽に利用できる空間になっていて、人の出入りがオープンにできる施設作りになっていたことが印象に残る。

出雲市から地域生活支援センター（現地域活動支援センター）運営の委託を受け、精神障がいのある当事者が長期入院患者の退院を支える「生活サポーター」の拠点として活動され、退院に不安を持っている患者に、同じ病気を持って地域で生活している当事者がサポートするということが、退院を促進させる一つの大きな要因になります、と施設長の矢田さんが話される。

また、退院する患者さんに医療・保健・福祉、その他の関係者が連携しながらサポートするチームが作られており、退院に対してすべての関係者が同じ方向を目指して思いを共有しているからこそ退院促進がスムーズに実施されているのを感じる。

この「ふあっと」のミッションに「地域のそれぞれの機関が、互いの限界と役割を認識しつつ連携し“当事者主体の生活支援”を実現していく」という理念があり、この理念に即した活動を通じて、こうした共通の理念を持つ人々が増え、地域の医療・保健・福祉・行政機関へと広がっていった結果、各機関の連携が強化され、同時に市民の理解も深まっていき、現在のような連携した支援体制が構築できることになったそうである。

そのような先進地を見聞して宮崎の現状を考えると、今年度から退院促進が実施されるのであるが、各関係者の退院に関する認識の違いが退院促進を妨げる要因になってしまうので、共通認識を持って実施することが、退院をより促進することに繋がると確信することになる。

そのためには出雲のように「“当事者主体の生活支援”を実現していく」という認識、大阪の「長期の社会的入院は人権侵害である」という共通認識を持って退院促進を国よりも先行する形で推進してきた事例もあり、宮崎もこれから色んな先進地の事例を有効に活用した宮崎版退院促進支援を実現することが望まれているし、宮崎県精神福祉連合会としても医療・保健・福祉・行政、その他の関係者と積極的に連携しながら、当事者が地域で生活するという人間として当然の権利を実現するために、積極的に退院促進を推進していくことが求められているのである。